

小学校におけるハンドボールの教材価値に関する研究

仙道 隆亮 (1502042)

[序論]

研究動機・研究目的・研究方法

筆者が大学に入学し、授業や課外活動で小学生が楽しそうにおこなっているハンドボールを見て以来、小学生のハンドボールに興味を持っている。小学校学習指導要領(平成10年度版、以下指導要領と記す)で「ハンドボールなどその他のボール運動を加えて指導することができる」となった以降、授業で行う学校は増えてきている。けれども、実際の小学校におけるハンドボール授業の実態はよく知られていない。素晴らしい教材価値を持っていると思われる競技なので、本研究を通して小学校におけるハンドボールの授業の教材価値を確認し再認識することにより、1人でも多くの人にハンドボールを知ってもらいたいと考えている。また、学習教材として今以上に多くの学校で取り上げられるきっかけとしたい。

本研究では、指導要領におけるハンドボールの教材価値を確認し再認識することを目的とする。また、教材価値を把握することにより、小学校におけるこれからのハンドボールの教材化の課題を明確にする。方法として、アンケート調査を行う。アンケート調査した後、分析・検討することにより、これからのハンドボール授業の課題が見えてくると考えられる。

[本論]

1章 ハンドボールの構造特性

ハンドボールは走・跳・投の基本運動が柱であり、手でボールを操作できる点や、ボールの大きさが手頃である点から、ボール感覚がつかみやすいという特性がある競技である。そのため、戦術学習が容易である。また、ルールや場の工夫が容易にできると考えられる。

2章 教材の概念

教材とは学習内容を習得させるための教授手段であり、児童にとっては学習対象のことである。体育において教材とは、教師と児童の学習・指導の双方向コミュニケーションを成立させるための媒体であり、教育内容ならび学習内容を具現化していくものである。体育の場合、特定の運動名称がそのまま教材になるのではなく、運動そのものがもつ特性を教育的に処理し、学習内容化したものが教材といえる。

日本ハンドボール協会のこれまでの実践研究に基づくと、ハンドボールの教材価値については、5項目で表すことができる。①子どもたちがボールを力一杯投げることができ、爽快感を得るだけでなく、発育・発達を即す ②すべての学年の子どもたちが楽しめる。③ボール操作が簡単なので、戦術学習が容易である。④ゲームの特性を把握しやすいので、教材づくりがしやすい。⑤生涯スポーツへの導入を容易にする。

結果・考察 ハンドボールの教材価値に関するアンケート調査

ハンドボールに対する教師の考えを把握するため、次のような仮説を立てた。

- ①ハンドボールを行うと運動の動きが良くなると考えられている。また、ボールを上手に投げられるようになると考えられている。

②ハンドボールの授業に積極的に取り組むと考えられている。

③ゲームにおいて、戦術・作戦を考えることができると考えられている。

④教師にとってハンドボールは指導しやすいと考えられている。

⑤ハンドボールの授業を行ったことで、授業以外でもハンドボールをするようになると考えられている。

これらの仮説を基に7項目からなる質問をした。(1)ハンドボールに対する取り組み方について(2)ハンドボールを通して変化したことについて(3)他の教材との関係について(4)戦術(戦い方)・作戦について(5)ゲームに対する取り組み方について、(6)指導後の状況について、(7)先生方の指導に関して

対象 各都道府県ハンドボール協会より推薦された小学校の中で、(財)日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討専門委員会により選定された、29校のハンドボール実践研究推進校の教師34名

方法 郵送調査法

34人中22人の回答を得ることができた(回収率64.7%)。回答を得た22人中21人は男性教師であった(男95.4%、女4.6%)。また、年齢は30代の教師が最も多かった(20代4.5%30代63.6%40代27.4%50代4.5%)。教師22人中15人がハンドボールの経験者だった(経験者68.1%未経験者31.9%)。

アンケート結果から次のようなことを教師が考えていることがわかった。

- ①ハンドボールを経験することで、児童の動きが良くなり上手に投げられるようになる。
- ②児童はハンドボールの授業に積極的に取り組む。
- ③ゲームにおいて、戦術・作戦を考えることができる。
- ④教師にとってハンドボールは指導しやすい。
- ⑤ハンドボールの授業を経験することで、授業以外でもハンドボールをするようになる。

[結論]

今回の研究では、次のことが認識できた。

- ①ハンドボールはボールを力一杯投げ爽快感を得るだけでなく、発育・発達も即すと考えられている。
- ②ハンドボールは男女に関係なくすべての学年で楽しめると考えられている。
- ③ハンドボールはボール操作が簡単であり、戦術学習を行いやすいと考えられている。
- ④ハンドボールは、ゲーム特性を把握しやすく、教材づくりがしやすいと考えられている。
- ⑤生涯スポーツの導入をしやすいと考えられている。

ハンドボールには素晴らしい教材価値を含んでいることが改めて認識できた。また、これらの教材価値を教師の方々が把握して実践されていた。

これからの課題として、今回の調査で対象とした実践校だけでなく一般の学校でもハンドボールの教材価値を認識し、行うようにすることが必要だと考える。そのためには、継続して教材価値を研究していかなくてはならないと考える。筆者も指導者となって、ハンドボールの素晴らしさを伝えていきたい。

(引用・参考文献省略)

(資料参照)